

「んなこと言ったら、自分だって、青春を演じているだけじゃん」で  
はじまる二人の会話を創作してください。長さは1〜2分程度。  
人物設定は自由。できれば、二人には名前をつけてください。

ライティング課題 2025年7月11日

るり んなことを言ったら自分だって青春を演じているだけじゃん

はるか そう？

るり だっていつもあやの先輩の前では可愛い後輩として振る舞っているけど先輩がいなくなったら途端先輩の愚痴ばかり言ってるじゃん。さっきだって先輩のカバン可愛いつてすごく褒めてたけど、後で何あの鞆センスなさすぎるって言ってめっちゃめちゃにバカにしたじゃん。

はるか じゃあ、T i k T o kとかですごく個性的な人とかよく見かけるじゃん。あれはどういうこと？

るり それも本当は演じられたものなんじゃない？

はるか え？

るり その個性というものも本当は演じられているっていうことだよ

はるか え、

るり 私はそういうことだと思う、多分

はるか なんか見方がわっちゃったよ、あんたのせいでこれまでみたいに楽しくT i k T o k見れなくなっちゃたじゃん。

るり ごめん

はるか ひどすぎない

はるか いや、私はやっぱり個性はあると思う。

るり まあ、どう考えるかは人それぞれだから私の価値観をはるかに押し付けようとは思ってないかよ

はるか なんかちよつとそう言われると距離ができたみたいで寂しいんだけど

るり じゃあ自分も青春を生きているだけで、個性は演じられているものだっていう

意見で良いつてこと？

はるか いや、まあ、それは違うけど。

はるか どっちの意見もスッキリしないな、誰だよこんな話題持ち出してきたの。

るり あんただよ。

創作・戯曲 齋下日和

熊野いつき

杉山空

熊野 んなこといったら、じぶんだって、青春を演じているだけじゃん？

杉山 え？

熊野 まあ皆？私も空も。

杉山 何の話？

熊野 演劇部って、演技って聞いてね、

杉山 うん。

熊野 わざわざ重ねんのかよ、って。

杉山 重ねる？

熊野 皆いつでも演じてるでしょ。友達の前とか大人の前とか。だから、わざわざ別の仮面被るなんて、って感じ。もっと疲れるだけかなって。

杉山 やっぱいつきちゃん、今もう疲れてんだ。

熊野 …バレた？

杉山 だから声かけた。

熊野 そっか。

杉山 …私は、だからこそ演劇しようって思ってた、

熊野 ん？

杉山 普段から何かしら演じてるからこそ、舞台の上でも演じてると、なんかこう…

熊野 …なに？

杉山 いや上手く言えなくて。現実でも舞台でもどこでも平気！っていうか何でもできちゃうかもーって気がするっていうか、でもこれなんかありきたりかな…

熊野 どこでも平気、

杉山 あああとほら、所謂青春、できるよ。多分。昔よく言ってたじゃん、漫画一緒に読んでた時とかさ、

熊野 所謂？

杉山 うん。

熊野 なんか、今の私にとっては、それが疲れちゃうかも。

杉山 え。

熊野 所謂、皆で一緒にテンプレで何かして楽しいね、みたいな、一般論の、青春、ってラベルに満足して、個性とか何、って感じ。

杉山 ごめん。

熊野 いやあんた悪くないから。私が色々あっただけ。

杉山 うん。

熊野 演劇って、自分だけじゃなくて周りのこともよく見てなきゃいけないでしょ。  
多分、私には無理だよ。

杉山 そんなことない。

熊野 え？

杉山 いつきちゃん、見せないだけで、色んなこと感じて、考えてるでしょ。多分それ、いつきちゃんの個性、個人の感性、全部役立つ。お芝居。

熊野 全部。

杉山 うん。なんか、私は、中学生のとき所謂青春に憧れてたのも、いつきちゃんの知らなかったところ知れてる今も、なんかいいなっていうか、だから：

熊野 …また？

杉山 だからその、いつきちゃんが普段演じてる役、とかつけてる仮面、ちょっと休憩させてあげられたらなって、いつきちゃんに必要な時間かなって、思った。

熊野 …そっか。

杉山 …えっと、それで、改めて。

熊野 うん。

杉山 しばらく疎遠だったやつが何言ってるんだろって、思うと思うんだけど、本当。

杉山 一緒に演劇、しませんか。

【佐野史奈】

——— 水。それは水素原子ふたつと酸素原子ひとつが結合した化合物である。

水は生命の維持に不可欠な物質であり、地球上の様々な場所で見られる。———

花 .. んなこと言ったら、自分だって青春を演じているだけじゃん。

雫 .. なにそれ。

花 .. 私と一緒に学校で過ごす？ それが青春？  
教室で勉強して、時間割どおりに生きる？

雫 .. 当たり前だよ。

花 .. 則て生きることが？

雫 .. それが「世間」ってやつだよ。でもね、私たちって、独りが良くても、自由が良くても「世間」がないと壊れちゃうんだよ。否応なしに押し潰されそうになったとしても、そこで踏ん張んなきゃ、生きなきゃ、たぶん、なんかダメなんだと思う。

花 .. 逸脱したら、こぼれ落ちるの？ 雫は、そう思うの？

雫 .. 花がどこかに行っても、私の前からいなくなっても、私のことを忘れても、生きていてくれたら嬉しいと思ってるし、それを願ってるよ。でも願うからには、しっかり生きていてほしいの。誰かから、世間から、突き放されて息がしづらくなっ  
てほしくないの。

花 .. 誰かに、どこかに依拠してなきゃ、私が私じゃいなくなると思うの？

..あのさ：雫はさ、今、目の前にあるものを大切にしようとするっていうかさ、守ろうとし過ぎだよ。それを抱えていくこととかさ。維持することとか。でもそれってね、ある意味、ずっと何かから作用されてる、使役的な行為だって思うの。

私は、ここにいると、すごくそれが顕著で辛い。

例えば、みんなテストが返されるでしょ？ んで、他人得点が見えないように、点

数が表記された部分を折って見せないようにする。誰かに決められた基準に引け目を感じてみたり、相対評価を怖がってる。でも、それが正解だって信じているし疑問すら感じていない。その維持行為を見ていると体のどこかがうずく。痛い。

雫 .. だから、違う場所に行きたくなかった？

花 .. ごめんね。こんな急な話。

雫 .. そんな些細なこと？

花 .. 些細なことは積み重なる。

雫 .. どこかでまた、「維持」できる？

花 .. わからない。

雫 .. 私たちのことも？

花 .. わからないけど、たぶんまた会えるとは思う。

雫 .. そっか。

雫 .. 蓮の花が咲いている頃だった。花は知らないところへ行った。

———  
花。それは色素の種類や量、気温や光の影響で色を変えることがある。

また、生命維持のためには根から水を吸収し、茎や葉に養分を行き届かせる———

はるか んなこと言ったら、自分だって、青春をえんじているだけじゃん。

ゆう いやそうでしょ。だってさ、このご時世、何も演じないで自然体で生きる方が無理あるよ。

ほら、シェイクスピアも「この世は舞台、人はみな役者」って言ってるし。

はるか それは何百年も前の、しかも芸術家の言葉じゃん。

ゆう いや、まあ、そうだけだよ。その場に合わせた役を演じてれば十分生きられると思うんだよ。

逆に、演じないで生きるって何？

はるか それは、うーん・・・うまく言えないけど

ゆう そうなんだよ。うまく言えないの。だって演じていない素の自分を私たちは見たことがないと思わない？無理に探そうと思えば思うほど、どれが自分かわからなくなると思うの。ちがう？

はるか そうかもね。どのわたしが自然体かぱつと答えられないや・・・でも、それでも演じていない自分がどこかにいて、そこにたどり着けばきつと今より自由に生きられるって思ってた。

ゆう ……

はるか 理想論なのはわかってる。確かに自然体な自分をみたことがないかも。でも、私はそれも何かを演じているような自分が嫌。周りを気にして、本音を殺して、仮面をつけたような状態に息が詰まりそうになる。ゆうは無いの？苦しくなったこと。

ゆう でもそういうものじゃん。わたしも自分の存在について不安になることがなかったわけじゃない。

むしろ、他人よりも自分の存在についてはずっと悩んでる。考えすぎなくらい。だけど、自然な自分を探せば探すほどどれも私な気がしてならなくなると、混乱して、わけがわからなくなると。でも気づいたの、私だけが苦しんでいるわけじゃない。誰でも苦しんでる。苦しんでる中で、みんななんとかやっていこうと役割を演じてる。だから、「若者は役割を演じている」って言われても、そりゃそうでしょう。

はるか みんな苦しんでる、かー。同じなんだね。ゆうも、私よりもしつかりしてるから、そんなことないって思った。でも私は現実からすぐ逃げちゃうから。ゆうは偉いよ。

ゆう ちがう。そんなことないよ。たぶんわたしが一番理想を捨てられてない。周囲に合わせないで、自由に生きたいってずっと思ってる。でもそうはならないからこそ、その理想を実現させるために現実を受け入れようとしている。諦めがつかないの、理想の。はるかの方がよっぽど立派だよ。

はるか そうかな、ゆうの方が断然大人だと思うな。

ゆう いや、案外子供なんだよ、私。子供だから、無理に辻褃を合わせようと必死になってる。

はるか そっか、・・・でも実際、ゆうの言う通りかも。

ゆう え？

はるか 本当の自分がわからないから、他人と触れ合って、色んな役を演じてみて、辻褃を合わせようとしてるんじゃないかな。お互い、自分の形、つまりイメージみたいなものを与えあってるんだよ。それで得たイメージを手がかりに少しずつ本当の自分を探してるんだと思う、きつと。

・・・それが、愛し合うってことかも。

ゆう 愛って（笑）はるか、ろくな恋愛したことないのに？（笑）

はるか それは関係ないじゃん！

ゆう あはは。でも、そうかもね。私たち愛し合って、自分を確かめてる。

はるか うん。

なぎさ 「んなこといったらじぶんだって、青春を演じているだけじゃん？」

さら 「うん、…そうかもね。でもさ、高校生って名乗れる時間って、あと一年半しかないんだよ。」

なぎさ 「それはまあ、そうだけど。」

さら 「世間で言われてる〈青春〉でもいいの。たとえそれが誰かの真似事だとしても、

〈もっと青春しておけばよかったー！〉って、あとから後悔するのは絶対にいや。」

なぎさ 「確かにそれは分かるけど…でもずっと青春の〈演者〉で居続けるのもなんだか悔しい気がする」

さら 「でもね、別に筋書き通りに私たちは全てを演じているわけじゃない。演者は演者なりに青春を解釈して演じてる。部活動や恋愛の青春って定義されていること以外でも、普段何気なくしている…ほらこの会話だって大人になって思い返してみればきつとすべてがまぶしい青春のうちの一つなんだよ。」

なぎさ 「そうだね。残りの一年半がより楽しみになってきちゃった。どうせなら、自分なりの青春、ちゃんと演じきりたい。」

「本当の自分」 山下ゆうり

とき子 高校3年生

うに 高校3年生

とき子 なんかこと言ったら、自分だって青春の個性を演じてるだけじゃん？

うに えー、たしかに。演じてるかも。

とき子 ほらあ

うに でも、別に演じてるつもりじゃないんだよ。相手に合わせちゃう性格だから自然と変わっちゃうんだよ。

とき子 だから、それが演じてるってことじゃん？

うに えー、認めたくない。

とき子 何だよそれ。

うに だから困ってるんだよ。本当の自分ってなんだろうって。なんかさ、演じてるって仮面被ってるみたいでやだ。

とき子 別に仮面被っててもいいんじゃないやね。

うに そうなのかな。とき子はどうなの。

とき子 へ。

うに とき子は青春の個性演じてるの？

とき子 別に、そういう話なら演じてるってことになるけど、悪い？

うに 悪くない。えーもつと分かんなくなってきた。

とき子 もー、めんどくさいな。じゃあさ、こうしなよ。

うに なに。

とき子 もうさ、全部本当の自分ってことにしたらいいんじゃない？

うに 確かに。

とき子 だろ。どのうにも全部本当のうに。

うに 全部本当の自分か。いいね。元気出た。ありがとう。

とき子 はいよ。腹減ったー。飯食お。

山田千鶴穂

香子 んなこと言ったら、じぶんだって、青春を演じているだけじゃん？

まつり え？

香子 いや、まつりだって青春演じてるじゃん。

まつり そんなことないよ。

香子 いや、あるね。私以外の子と海行つて。セブンティーンってブルーンも持ってつてさ。楽しそうだったじゃん。

まつり まだ根に持ってるのそれ。

香子 私以外の子とカラオケでJKケーキ作ってたじゃん。

まつり あー。

香子 いちようの木の下で、葉っぱでハート作って、なんかいい感じの写真撮ってたじゃん。

まつり それ香子ともやったよ。

香子 制服デイズニー、行きたかったじゃん？

まつり うんそれは。春休みとか行こ。

香子 でもさ、結局、それって別に私たちらしくはないよね。

まつり ……まあ？みんなやってるしね。でも、みんなやってるからさ、それが青春なんじゃないの。みんなやってるのに私たちだけやってないのなんか嫌じゃない？

香子 いやあ、結局さ、うちら個性なくね

まつり さっき散々言ってた人が。何言ってるの。え、なに、個性？

香子 うん。だって、周り見てもみんな同じようなことしてるし。

まつり まあそうだけど。

香子 みんなと同じことをして、みんなと同じなことに安心してるだけなんじゃない。

まつり うーん、そうかなあ。

山田芽生

警察官（29） 岸 さくら

素行の悪い少女（17） 齋藤 千晴

町一番素行が悪い（タバコを吸うし、お酒も飲む）千晴が万引きをし、警察署でさくらの取り調べを受けている。

さんなこと言ったら、自分だって、青春を演じているだけじゃん

千は？何言ってるの

さ 難しい言い方しちゃったね、つまり千晴ちゃんは、

千は、何おばさん。結構うざいんだけど。うける

さ 相変わらず口悪いねー笑

千 ねえ、もうそろそろ帰りたいんだけど

（バックに荷物を詰め始め、椅子から立とうとする）

さ つまり千晴ちゃんはね

千 はあ

（諦めたように脱力して、どかっと椅子に座る）

さ 私が聞きたいのは、本当に万引きが千晴ちゃんのしたいことなのかってこと

千 そんなのわからんし

さ え！わかんないまましてたの

千 ダメなのかよ

さ じゃあタバコとかお酒とか？始めたきっかけはなんなの

千 （天を仰ぎ数秒考える）（口をつぐむ）そんなのあんたにいう必要ないから

さ 言いたくないならいいんだけどさ、あくまで例としてね、言うんだけど、先輩とか、周りの人がやってるからって理由でさ、千晴ちゃんがやってるようなこと始めた人が多くて、でもそれって自分の考えでやり始めた訳じゃないでしょ、そこにあなた特有の意思はありますか、ないでしょって話じゃない

千 は、なに、マジでうざいんだけど。ふっーに意思あるし

さ 千晴ちゃんだけじゃないんだよ、私もそう。警察官としてこうあらねばとか、自分の意思とか、本能のまま生きてる訳じゃないの。やっぱり、組織に属するものとして、与えられた役割を果たすのが大事だし、求められるからね。

千 じゃああなたには意思ないってこと？やっぱ私が最初言った通り、頼まれたからやっ  
んでしょ、この取り調べだって。え、楽しい？人生、ダサくない？その生き方

さ ふふふ、まだまだ若いねー、私はね、さつき言ったように個性なんてそもそもないって  
思っているの。そのほうが楽しね。でも、千晴ちゃんの歳くらいの子はそれじゃ自分  
分って何って考えちゃうよね。うんうん。わかるわかる

千 ちっじゃあ自分ってなんなの

さ 私にもよくわからないなーでもさ、自分に自信持って元気に楽しく生きたいじゃん。自  
分に自信を持つためには色々なものに触れて、知識の幅を広げたいよね。個性がそもそ  
もないのなら、個人を形成する上で、どんなものに触れて、どんなことを考えたり感じ  
たりするかが大事じゃん。千晴ちゃんにはもっと広い世界を知ってほしいの。

千 偉そうに。

さ なにか言い残したことある？

さ さて反省したかな。今回はお店の人が多めに見てくれたから良かったけど、次はないか  
らね。名前をここに書いたら今日は帰りなさい。

さ 齋藤って難しいほうの齋藤なんだね。しっかり書いてるの偉いね笑

千 うるっさいな。名前なんなんだよ

さ え、私？(ニヤニヤしながら) 岸だよ岸さくら

千 (笑う)めっちゃ簡単じゃん。いいな (沈黙の後)

今から謝りに行けば、なかったことにできるかな

さ それは流石に無理があるよ。でも！その気持ちがすごく大事だと思うよ

千 偉そうに、ふざけんな。でもまあ謝りに一旦行くわ

(席を立て歩き出す)

さ 立派、立派

千 うるさい！ (といった後ニコニコ歩く)

鷺見心寧

んなこと言ったら、じぶんだって、青春を演じているだけじゃん？

じゃ、あなたはどうかなの？

今あなたの話してるでしょ。

そうね、でも痛いところ突かれたから負けを認めます。で、あなたは？

あらそう、認めるのね。

別に私は自分の人生を楽しんでるだけですけど。一度だけの人生、大切な仲間、輝く私。これは私にしかできない青春…

自分の世界から帰って来てもらってもいい？

別に私はどこにも行ってないわよ 

じゃ聞くけど、あなた青春のやり方どうやって知ったのよ。

SMSからだけど。

SNSね…で、あなたのやってる青春はあなたにしかできない青春

うんそういうこと。

SNSで知った青春のテンプレをあなただけの青春にしてるのね。

…あんた説明下手系の人？

…あんた理解下手系の人？…なんだか嫌ね、○○系っていうの。バカな若者みたい。

それがいいじゃない。あんた良さをわかってないのよ。それにあんただって私の同い年なんだから理解力はさほど変わらないでしょ。カタカナ使うのやめて。

話戻すわね。結局のところ、私だけの青春という割には誰かをコピペしているってことでしょ。ただの真似っこじゃない。

だってわからないんだもの、青春のやり方。いいじゃない、やってる本人が「私にしかできなない！」って言うてるならそれで。みんなそうでしょきつと。あんた知ってる？お向かいのインフルエンザーで有名なよしこさんも、お手本にしている人がいるんですってよ。

インフルエンサーね…あの人がインフルエンザーだったらもう死んじやってるわよ…まあそうね、しょうがないものね。だって私たちもうアラソツじゃない。92よ92。92のババアが青春の1から10を知っているわけないじゃない。

その通り。杉山やすこ92歳、カタカナから勉強しなくちやいけない状態だもの。

田中きょうこ92歳も頑張るわね…

一つ聞きたいんだけど、アラソツってなんなのかしら。

明 「んなこと言ったら、自分だって青春を演じてるだけじゃん。」

朋 「そうだけど、なんかちょっと違うんだよ。演じようと思って演じてると、周りに演じさせられているっていうのは。」

明 「演じてるのは同じだって。どっちにしろ大事なのは、上手く演じられてるかどうかっていうの。」

きつと、うまく演じられたら、やらされてる感がなくなっって楽しくなんじゃね?」

朋 「えっ、それはむしろ怖い。本当の自分がわかんなくなっちゃう」

明 「そんなのわかんねーだろ、もともと。ごちゃごちゃ言っていないでさっさと練習しようよ。」

朋 「…うん。」

明、ハムレットのモノローグを始める。

「このままでいいのか、いけないのかそれが問題だ。

どちらが立派な生き方が、このまま心のうちに

暴虐な運命の矢弾をじっと耐え忍ぶことが、

それとも寄せくる怒涛の苦難に敢然と立ち向かい、

闘ってそれに終止符を打つことか。死ぬ、眠る、

それだけだ。眠ることによって終止符は打てる、

心の悩みにも、肉体につきまとう

かずかずの苦しみにも。それこそ願ってもない

終わりではないか。死ぬ、眠る。(この辺りから、音量を下げていき、明のモノローグを背景に、朋のモノローグが始まる。)

眠る、おそろくは夢を見る。そこだつまづくのは

朋 「なぜ、明が演じるハムレットはあんなに心を打つんだろ。」

この世のわずらいからからかうじて逃れ、

あいつが本当には何も考えていないって知ってるのに感動してしまう。

永の眠りにつき、そこでどんな夢をみる？

俺の方がハムレットの心がわかるはずなのに、

それがあるからためらうのだ。それを思うから

俺ではうまく演じられない。

苦しい人生をいつまでも長引かすのだ。

上手いか、下手か、それが問題なのか。」

**(朋のモノローグが終わると、明のハムレットのセリフは通常の音量に戻る)**

でなければだれががまんするか、世間の鞭打つ非難、

権力者の無法な行為、おごるものの侮蔑、

さげすまれた恋の痛み、裁判のひきのばし、

役人どもの横柄さ、立派な人物が

くだらぬやつ相手にじっと耐えしのぶ屈辱、

このような重荷をだれが我慢するか、この世から

短剣のただ一突きで逃れることができるのに…」

目は口ほどにラララララ

大岡 淳

リサ んなこと言ったら、じぶんだって、青春を演じているだけじゃん？  
マユ えっ、ええっ、そう見えてるわけ?!  
リサ だってなんか嬉しそうじゃん、声のトーン変わるじゃん、倉持先輩いると。  
マユ いやそれ普通だから。恋愛だから。  
リサ 恋愛こそドラマだろ。  
マユ ドラマじゃねーよ、恋愛は恋愛でも片思いなんだよこっちは！  
リサ いやいやいやいや、片思いこそドラマっしょ。背伸びするっしょ。(鼻声で)「アレ？ 倉持先輩、今日は、ミサキ先輩一緒じゃないんですかー？」  
マユ 言わねーよ、んなあざといこと！ オマエふざけんなし！  
リサ 「じゃーあー、アタシでよかったらー、話聞きますけど？」  
マユ ソレもはやアニメじゃね？  
リサ ちげーよ、言ってるんだよ実際！  
マユ ぜってー言ってますんー！  
リサ 言ってるなくても、オマエの心が言ってるんだよ！  
マユ はああああ?! なんでアタシの心の声がアンタに聞こえんだよ！  
リサ ダダ漏れだからだよ！  
マユ ダダ漏れってどっから漏れてんだよ！  
リサ (一瞬マユを見つめて) 目だよ！

沈黙。

マユ、リサに背を向けて、こっそり手鏡を開けて、自分の目を覗き込む。

リサ (気づかず) ハアアアア、くそだりい。  
マユ ……あのさ、アタシが言いたかったのは、みんなといるときの、アンタのキャラ設定に、無理があんじやないのって話。  
リサ いや、だから、関係ないよね？  
マユ ぶっちゃけ無理してない？  
リサ は？ してねーし。  
マユ きつくない？  
リサ さつきからウザいんだけど、え、何様?!  
マユ マユ様。  
リサ だよな。

リサ、ため息をつく。

リサ アンタはいいよね。そうやってさー、「マユ様」とか言ってさー、勝ち目のない恋愛もノリノリでさー。

マユ 勝ち目ない言うな。

リサ ウチなんかもう、終わってますから。詰んでますから。本当は。

マユ 何が？

リサ 人生。

マユ バカじゃないの？

リサ バカなんだよ。バカだから、バカなりに楽しくやろうとしてんじゃん！

マユ お、お。

リサ なのにさー、それをさー、「無理すんな」とか言う資格あるわけ、アンタに?!

なんなんソレ！　そういうのが友情だとも思ってる?!　ソレただの上から目線だからね?!

でも、

マユ 青春を、演じてるって、そういうとこな。

マユ ……………ごめん。

リサ ……………許す。

マユ 今のは、本気で謝った。

リサ 本気を演じたわけではなく。

マユ いや、そう言われるとわからんけど。

リサ いや、本気っぽかった。

マユ そうなん？

リサ うん。

マユ なんで？

リサ だって、目が。

リサとマユ、思わず見つめ合う。

おしまい